

# 創価学会 韓国で急伸

## 会員120万人、総人口の2.6%

### 対日感情緩和と市民運動進め浸透

【ソウル＝黒田勝弘】  
仏教徒、キリスト教徒が各一割を占める韓国で日本の創価学会の会員が急増している。関係者によると、その数は現在、四十万世帯、百二十万人と

総人口の約2.6%にのぼり、日本系の宗教としては異例の急成長だ。創価学会は韓国では「倭色（日本風）宗教」として非難、排斥された時代が長かった。近年の会員増は韓国社会の日本に対する感情の緩和も背景にあるとみられている。

創価学会は海外ではS（創価学会インターナショナル）として活動し、韓国では「韓国のS」という。急成長の象徴は四月に完成した韓国S本部ビル。ソウル市九老区九老洞の敷地一万四千平方メートルに地上十二階地下五階の大型ビルがそびえている。

創価学会は一九六〇年代初め、在日韓国人の会員信者を通じ日本に近い釜山など南部地域に進出した。当初は日本風の誘導などが反発を買い、とくに反日感情の強いマスコミからは、宗教侵略などと非難されることも多かった。

会員の拡大は一九九〇年代以降で、二〇〇〇年四月には宗教法人として政府から「財団法人」の認可を得ている。

急成長の背景については「読経など日常の宗教儀礼を簡素化したことや日蓮正宗からの分離など日本色を薄めたこと、さらに環境保護や文化活動など地域社会に奉仕する市民運動を活発に展開し安心感と信頼感を与えた結果ではないか（柴京述・韓国S広報局長）としている。

「日本宗教」としての拒否感の有無に関しては「創価学会自体が戦前の日本で弾圧された歴史があるため、軍国主義日本の被害体験を説明することで韓国人の理解を得ている」（同）という。

会員は現在、ソウル首都圏が最も多く、百五の大学に学生組織があり青年部会員は十万人になるとか。

産経新聞 2003.6.23

創価学会 法華系の新宗教で、もと大石寺を本山とする日蓮正宗の信者団体。秋谷栄之助会長。本部は東京都。昭和5年、牧口常三郎、戸田城聖両氏が創立。27年に宗教法人に。35年、池田大作氏（現名誉会長）が第3代会長に就任。39年に公明党結成。平成3年日蓮正宗より独立。創価学会によると会員は国内で821万世帯。主な機関紙に聖教新聞。

財政力については明らかにしていないが、関係者は「財団の年間予算としては三千億ウォン（約三百億円）以上と語っている。会員向けの週刊新聞の先行部数は六十万部という。

百万人を超す会員数は政治的影響力としても注目されるが、池田大作名誉会長から選挙をはじめ政治には関与しないよう厳しく言われている。日本から公明党の首脳が訪韓しても一切、接触はない（同）と非政治、脱政治を強調している。